

【中学生部門】

最優秀賞 「五時間目という戦場」(尾上直孝さん)

不思議と眠くなる魔の“五時間目”。眠いのは自分がダメだからだと作者は思っているが、そんなことはない。私の知っている天才的数学者でも五時間目は眠くなって夢遊病者のようなノートの取り方をしていたのだから。

作者は「朝は大丈夫だった。昼休みまでは完ぺきだった。なのに、」と首を傾げ、体をつねったり、息を止めたり、実況をつけたりして対抗する。誰もが思い当たる“五時間目”をユーモアで描写した、非常に面白い文章だと思った。

優秀賞 「月桃」(平山心陽さん)

細かな文章上の欠点はあるが、才能が煌めいている。「向かいの家の屋根は、てらてらと光を照り返していて、私は目を輝かせました。夜、それが起こった場合は決まって、満月と決まっているからです」といった感覚。「空気がしん、と冷え切った所にちょん、といる月の方が」の「しん」と「ちょん」の対置。こういう一篇の詩のようなエッセイを私は初めて読んだ。相当面白いものを持った人だと思った。

佳作 「散髪代は三千円」(田内颯太さん)

中学生になると値上げされてしまう散髪代。お母さんはもっと安い店に変えようと提案するが、作者は今のお店のおじさんと仲良くなって色んな会話を楽しんでいるから変わりたくないと言う。「今では学校の事を話したりして和やかな空間が生まれるようになった」と上手に表現している。結局お母さんは作者の主張を受け入れるのだが、そうした息子の人間的な心の交流を大事にしてやろうというお母さんが立派だ。お母さんによるしく。

【高校生部門】

最優秀賞 「本とともに」(平野琴葉さん)

ひと言でいうと素晴らしい文章だ。思わず嫉妬してしまうほどだ。本を読むのに夢中で電車の車内アナウンスも聞こえないことを「私の耳は何の音も拾わない」などという洒落た文句で平然と書いている。「心地よい読後感を目と脳の重さで感じながら、私の体に二時間ぶりの空気が入ってくる」。息を詰めて読んでいた緊迫感がこの一行で伝わる。じつに天才的でうますぎる。「本から得た知識は私に自信をくれた。本から学んだ情緒は私自身を豊かにした」とあるように、情緒的なものと同時に説得力もある作品である。

優秀賞「私の一步」(河野陽菜さん)

宿題ができないまま学校に向かう心境を「こんなに明るい自分のからっぽな中身を透かして見られそうで、(中略)日傘を差した」と表現する感性。「みんな、はやいよ。過ぎていく時間に、私だけが取り残されている」とダメな自分に対する焦りや苛立ちを募らせていて、いかにも真摯な真面目さがうかがえる。「どうせ私はこの先も変わらない。——どうせ」といった書き表し方の独創性。「歩き出すその先を見据えて、深く息を吸い込んだ」と今の自分から抜け出す覚悟で締めくくる技巧。非常に才能があるのだから、自信を持ってほしい。

佳作「画面に映らない幸せ」(塚田あすみさん)

世界中の中高生がSNSの世界にはまってしまっている。人類を滅ぼす最も有効な武器であり、オーストラリアではついに16歳未満のSNS利用禁止法が施行されたが、この作者はそんな法律下におかれていなくても自分で気づくことができた。ニュージーランドに留学して目の前の人や自然に肌で触れるうちに、ああした架空の世界に生きることの虚しさに思い至ったのである。面白い内容だ。

【一般部門】

最優秀賞「いのちを生きる」(日沼よしみさん)

非常に素晴らしく感動的で涙が湧いてきた。一つだけ欠点を挙げるなら、冒頭から7行目「浅はかにも」と結論を先に出しすぎたところ。徐々にそこへと向かっていくのだから、ここでは出さない方がよい。

「四月初旬、柔らかな春の日差しが、まだ芽吹き of 浅い木々の間を縫って幾重にも交差するその先、」——私はとてもこんなふうには書けない。素晴らしすぎる。恋人や新妻を描いた裸婦像の前に立ちすくむ心情や、夫の介護方法の選択に対する自問自答の想いがよく伝わる。クライマックスに置かれた「私の名前を呼ぶ。呼ぶ、呼ぶ、私の名前を呼ぶ」の迫力。これで最優秀賞に決まった。最後の自然描写もじつにうまいと思った。

優秀賞「つなぐ」(井口未来さん)

自分にとって気心の知れた仲だった義父の危篤の際の状況を書いたもの。何度か出てくる雨の描写は、作者の悲しみ、涙と重なるかのようで上手い構成だ。いよいよ最期を迎えようかというギリギリの場面で、もう何もわからなくなっていた義父が孫にだけは反応し腕を伸ばす。短い作品だが非常に感動的である。

佳作「父への詫び状」(二村直子さん)

父を亡くしたという悲しみ、深刻な状況から一転、海に散骨しようとした小指の遺骨を、間違えて洗濯機に入れて回してしまったという。じつに度胸の良いシチュエーションである。感動とユーモアがうまく織りなして、とても面白いと思った。